

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと に関しては、良好な結果であった。
- ②書くこと に関しては、概ね良好な結果であった
- ③読むこと に関しては、概ね良好な結果であった。
- ④言語事項 に関しては、概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式 に関しては、概ね良好な結果であった。
- ②短答式 に関しては、概ね良好な結果であった。

(無解答率) についても 概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・設問番号 1-2「貯金」の漢字の読みの正答率が最も高かった。
- ・設問番号 8-2「あさって」をローマ字で表記する問題の正答率が最も低かった。
- ・無解答率が最も高かったのは、ローマ字で表記された「hyaku」をひらがなに直す問題であった。

国語B

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと に関しては、概ね良好な結果であった。
- ②書くこと に関しては、概ね良好な結果であった
- ③読むこと に関しては、概ね良好な結果であった
- ④言語事項 に関しては、概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 に関しては、概ね良好な結果であった
- ②記述式 に関しては、概ね良好な結果であった。

(無解答率) についても概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・最も正答率の高かった問題は、3-「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する問題であった。
- ・最も正答率の低かった問題は、「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する問題であった。

分析

国語 AB の基礎的な知識および活用力の問題では、概ね良好な結果であった。漢字の読みの問題は良好な結果であったが、漢字の書きの問題では正答率が下がり、やや課題が見られる。また、ローマ字で表記された単語の読み・書きの問題の正答率がやや低く、3年生で学習するローマ字をその後の学年でどのように継続して扱っていくかを検討していく必要があると考えられる。基本的な読み取りの問題については概ね良好な結果となっているが、国語 B の問題番号 1 二のようにインタビューメモを頭に入れながらその意図を読み取っていくようなやや発展的な読み取りの問題になると、正答率が低く、課題がみられた。本文に書いている内容を根拠として問題に答えることを習慣化し、正確な読み取りの能力を一層高めていくことが必要である。そして、目的に応じて必要な情報を的確に取り出し、それらに関係づけて読む力を育てていきたい。

算数・数学

算数・数学A

(領域ごと)

- ①数と計算 に関しては概ね良好な結果であった
- ②量と測定 に関しては概ね良好な結果であった
- ③図形 に関しては概ね良好な結果であった
- ④数量関係 に関してはやや課題が残る結果であった。

(問題形式)

- ①選択式 に関しては概ね良好な結果であった
- ②短答式 に関してはやや課題が残る結果であった。

(無解答率) についても 概ね良好な結果であった

(その他)

- 正答率が全国より高かった設問は、
- 1ー(1)「 $\square \div 0.8$ の商について正しいものを選ぶ。」
 - 3ー(1)「二つの数の大小関係を表す不等号を書く。」
 - 7 「直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ。」
一方、正答率が全国よりも低かった設問は、
 - 1ー(2)「 $2.1 \div 0.7$ を。除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。」
 - 2ー(3)「 $18 \div 0.9$ を計算する。」
 - 9ー(2)「定員と乗っている人数の割合を百分率を用いた図に表すとき、あてはまる数値の組み合わせを書く。」

算数・数学B

(領域ごと)

- ①数と計算 に関しては概ね良好な結果であった。
- ②量と測定 に関しては 概ね良好な結果であった
- ③図形 に関しては 概ね良好な結果であった
- ④数量関係 に関しては概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 に関しては概ね良好な結果であった
- ②短答式 に関しては 概ね良好な結果であった
- ③記述式 に関しては 概ね大変良好な結果であった

(無解答率) についても 概ね良好な結果であった。

(その他)

- 正答率が全国よりも高かった設問は、
- 1ー(2)「正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4平方センチメートル小さくなることの説明。」
 - 2ー(1)「ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる。」
 - 3ー(3)「1辺が9cmの正方形に内接する円をかくために、コンパスのえんぴつの先を合わせる位置を選ぶ。」
一方、正答率が全国よりも低かった設問は
 - 3ー(2)「縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取るわけを書く。」
 - 4ー(3)A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを比べ、読み取った事柄として、正しくない事柄に対して、正しくないわけを書く。

分析

A 問題においては、図形関係や大小比較する問題は正答率が高く、よく理解できていると言える。それに反し、数量関係を問う問題にやや課題が残る結果となった。また、小数のたし算やわり算にも課題が見られる。被除数・除数に同じ数をかけたり、わったりして計算しても商は変わらないなどの基本的数量関係を再度習得する必要がある。その際に文章を読み取ったり、図から考えたりすることが求められているので、今後、基本的な数量関係に対する理解を深めると共に、文章や図から読み取る力をつけていく必要がある。

B問題においては、正答率はほぼ全国平均と同じであるが、無解答率の高い問題があり、少し見慣れない問題については、あきらめてしまっているか、時間内に読み取れていないということが考えられる。今後も基礎的な数量関係の理解を深め、計算力をつけていくと共に、いろいろな問題に触れる機会を増やしていく必要がある。

また、生活児童質問紙において、「算数は役立つか。」という質問に対して、肯定的意見がやや低く、算数科での学びが生活に密接につながること、暮らしに役に立つことを実感できるよう、さらに授業を工夫改善していきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

調査の始まった平成19年から平成27年まで、国語・算数・A・Bともに、上昇傾向がみられていたが、今年度については、少し下降が見られる。年々減少していた無解答率も少し増えた。

学力高位層と学力低位層についての分析

学力低位層については、平成19年度から平成27年度まで、連続して低下傾向である。高位層については上昇傾向がみられ、概ね良好な状態を維持していたが、今年度について低位層が増え、高位層が減っている。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

授業づくりについて

- ・「自ら考え みんなで交流しあう授業づくり」のテーマにそって各学年が研究授業に取り組み、授業力の向上を図る。
- ・授業の中で、交流を通し児童どうしのつながり力の向上を図る。
- ・問題解決学習の推進。
- ・授業の視覚化、構造化、協働化の定着
- ・効果的なICT機器の活用、支援サポーターとの連携、
- ・習熟度別指導や個別指導など個に応じたきめ細かな指導
- ・山手台スタンダード、100点筆箱、学習のルール の定着
- ・校内研修会の実施

基礎的な学力育成を

- ・朝学習の充実・・・なかよし学びタイム・ぐんぐんタイム
- ・専門支援員と連携し、学力の向上を図る。
- ・朝の読書の実施、図書館支援員との連携により、読み聞かせなどにより意欲的に読書に取り組めるようにする。

家庭との連携

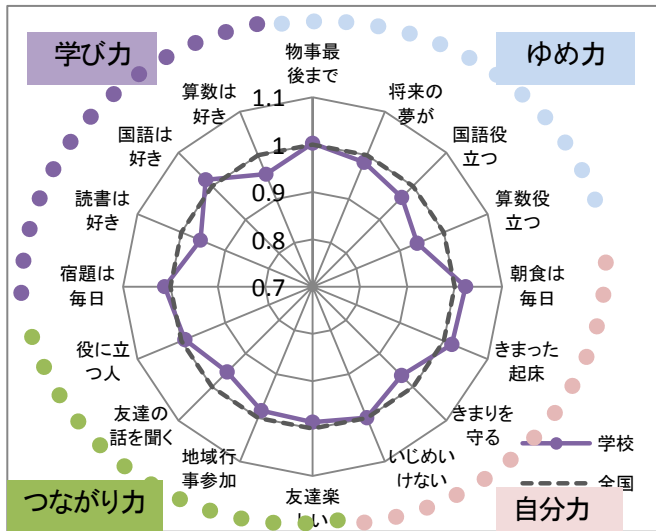
- ・学習・生活アップ週間、家庭学習の手引き
- ・家庭学習、自主学習の定着を図る。

小中連携の強化

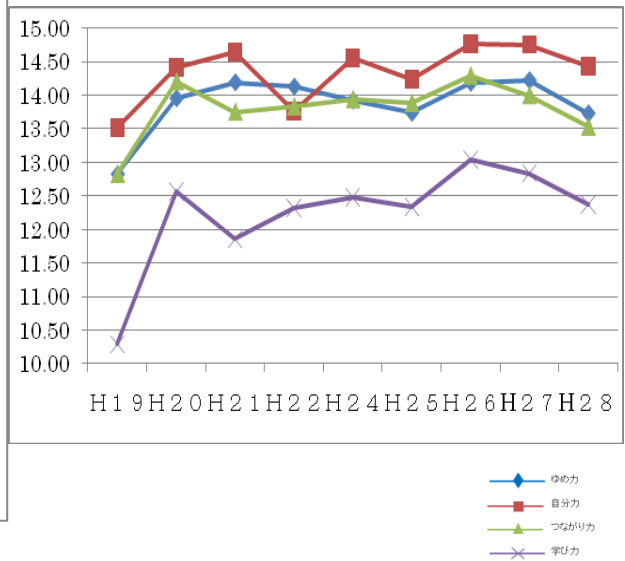
- ・小中合同研修
- ・北陵中学校校区の研究授業の実施
- ・交流会の実施

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分析

「ゆめ力」(将来展望を持ち努力できる力)

他の力に比べてやや低い傾向が見られる。物事を最後までやり遂げることの大切さは認識しているが、将来展望を持ちそれに向かって努力する点や算数や国語が夢の実現につながるという意識が薄いようである。

「自分力」(規範意識を持ち、自分をコントロールできる力)

朝食を毎日食べることや決まった時刻に起床することなど基本的な生活習慣は身につけている。いじめはいけないという気持ちは持っているが、学校のきまりを守るという規範意識がやや低下している。

「つながり力」(他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力)

友だちの話聞くことや地域行事への参加の項目が低下傾向である。人の役に立ちたいという気持ちは持っているが、他者や地域とのつながりという意識に課題がある。

「まなび力」(学校の授業で意欲的に学ぶ力)

家庭での学習習慣は定着している。また国語が好きな割合も高い。一方、昨年度よりは減少したが読書好きではない児童も少なからず見られる。また、算数好きの児童の割合は低下した。

取り組み

ゆめ力

学年に応じたキャリア教育の推進・二分の一成人式の実施
ゲストティーチャーとの出会いを通して、仕事や生き方を学ぶ

自分力

規範意識を身につける。人を思いやる気持ち、人権感覚を身につける
学習・生活アップ週間の実施

つながり力

朝学習（なかよし学びタイム）

育む会（青健協）との連携、親子映画会・耐寒ハイキングの実施、地域の人たちとの交流、公民館との連携、地区運動会への参加、国際理解教育

学び力

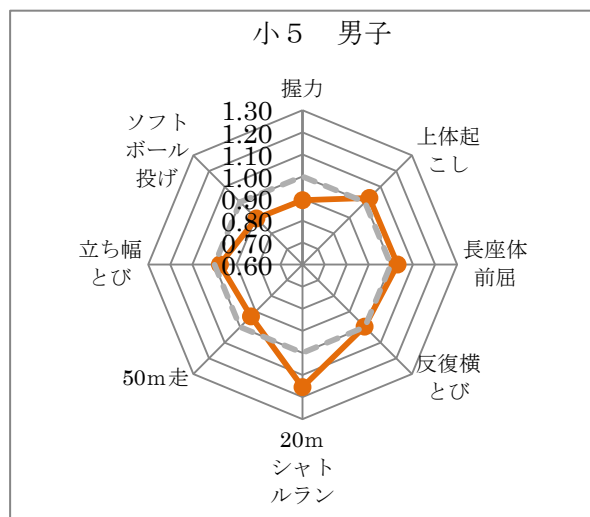
朝の学習（基礎・基本の定着）

自分で課題を設定し、自主的に学習する力をつける。

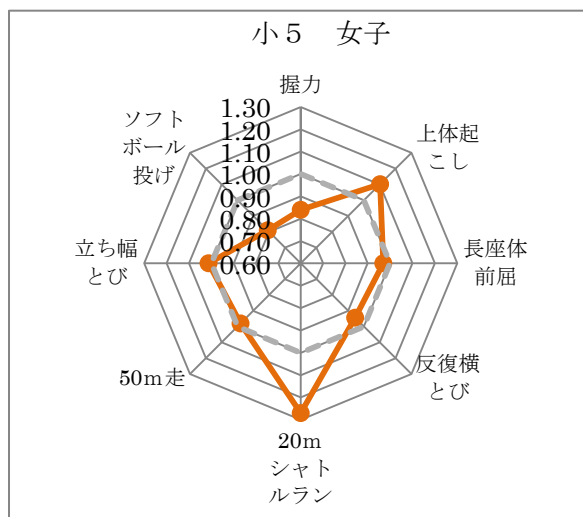
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)



女子 (小5)



分析

男女ともにソフトボール投げと握力が著しく低い。(特に女子が低い)

男子に関しては、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅跳びはほぼ全国平均である。
また、50m走は平均以下である。

女子に関しては、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅跳びは、ほぼ全国平均である。
また、上体起こしは、全国平均より高い。

20mシャトルランは男女ともに全国平均より高く、全身持久力に優れている。
男女ともに、筋力やボールを投げるといった能力に課題が見られる。

取り組み

スポーツテスト全学年実施及び検証

体育職員研修の実施

- ・陸上運動
- ・器械運動
- ・水泳

なわとび週間

ドッジボール週間

茨木っ子運動Ⅱの全学年実施

	(各校)		(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	自ら考え、学び合う学習を通して確かな学力の定着を図る	自分の体力の状況を知り、運動に親しみ、体力を伸ばす	思いやりをもち、助け合う子どもたちを育てる
平成26年度	研究授業 教科(算数)・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習 家庭学習の手引きの検討 あゆみ 評価項目の検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(保護者)の実施	スポーツテスト全学年実施 及び検証 体育職員研修の実施 ・ボール運動 ・水泳指導 なわとび週間 ドッジボール週間	◎中学校区での合同研修会 (生徒指導研修会) 8月19日(火) 午後1時30分～4時30分 ・生徒指導研修会后、教科毎 のグループに分かれ討議 ① 小中の違いと連携して いくべきことの確認 ② 今後(2, 3年目)に向 けてどうするかの話合 い ◎同じ中学校区の学校の研 究授業の紹介と参加
平成27年度	研究授業 教科・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習 家庭学習の手引きの検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(児童)の実施	スポーツテスト全学年実施 及び検証 体育職員研修の実施 ・陸上運動 ・器械運動 なわとび週間	◎同じ中学校区の学校の研 究授業の紹介と参加 ○連携する内容別の分科会 の開催(教科、支援、行事、 情報モラル、授業規律等) ○授業内容の交流 ○保幼小中連携カリキュラ ムの検討・作成
平成28年度	研究授業 教科・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習 家庭学習の手引きの検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(教師)の実施 ジャンプアップ計画の検証	スポーツテスト全学年実施 及び検証 体育職員研修の実施 ・表現運動 ・体づくり運動 なわとび週間	◎同じ中学校区の学校で1 回ずつ合同授業を実施 ○小中での連携事項を意識 した授業づくり ○保幼小中連携カリキュラ ムの検討・作成